

# 青春スクロール

## 母校群像記

http://t.asahi.com/dnnn

### ど根性、営業に活用／どう工夫すべきか

経済界で活躍する多摩高校の卒業生は多い。急成長を続けるLINE社長の森川亮（47、1985年卒）、トヨタ自動車副社長の前川真基（64、68年卒）、電源開発会長の前田泰生（63、69年卒）もOBだ。

NEC執行役員常務の木下学（60、73年卒）は陸上部員。3年の県大会は修学旅行と重なり、顧問不在で戦った。アンカーを務めた1600メートルリレーでは、2位でバトンを受けたが2人に抜かれて4位に。関東大会では逆に2人を抜き、山形での



## 多摩高校 5



童顔のため一見、取締役には見えない木下鉄平

高校総体出場を決めた。「スポーツは結果も大事。負けず嫌いの精神は営業で役立った」

ソフトブレイク取締役・管理部長の木下鉄平（35、97年卒）も陸上部員だった。入学時に身長が140センチなく「球技は諦めた」という。3年の11月、受験勉強そっちのけで走った高



サッカー選手ヨハン・クライフに憧れていた藤井

校駅伝では2人抜き。「練習した分だけタイムは良くなり、サボれば遅くなった。天才でなくても、チャンスは誰にでもある、と学んだ」と話す。

みずほ銀行専務の藤井信行（55、77年卒）はサッカー部員。「生物の授業中に破れたボールを縫っていたら、先生から



「人生で初めて好きになった学校」と話す鈴木

『いくら蹴っても、藤井の子どもが生まれながらにサッカーがうまくなることは、遺伝的にはない』と言われた。ユニークな先生が多かった」と笑う。

日本コカ・コーラ副社長の鈴木祥子（46、86年卒）は「教科書をそのまま教えない。テストもCMのコピーを並べて『感じること述べよ』みたいな問題だった」。学校や河原で友達と

よく話をしたといい、「議論を通して『他人と同じことをしていてはダメだ』と考えられるようになった」と言う。

自動車の販売や整備を手がけ、J2湘南のスポンサーでもあるサンオータス社長の北野俊（46、86年卒）はサッカー部員だった。合宿の最終日は走って山中湖を1周。厳しい練習を通じて「無理と思ったことでも、どう工夫すれば出来るのかを考える習慣がついた」と話す。

川崎信用金庫理事長の草壁悟朗（60、72年卒）は軽音楽部「ニュー・フォーク・メッセンジャー」でウッドベースを担当。「自分のクラスを抜け出し、面白い漢文の授業に紛れ込

んでいた」と思い出を語る。

JASEレサ川崎組合長を経て、JA県中央会・連合会副会長を務める高桑光雄（66、66年卒）は実家の農業を手伝い、配達を兼ねてオートバイで通学した。「自宅がある柿生（川崎市麻生区）は農家ばかり。高校がある宿河原（多摩区）まで来る」と「街に出てきた」と感じたのを思い出す」と振り返る。